教育

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○62

第4章・ゆとり教育世代の意欲喚起術

子ども部屋

他人への関心を希薄に

今年も5月の連休を過ぎたあたりから、不登校の相談が増えてきました。地元ラジオ局で担当している「教育相談コーナー」にも2人の中3生から質問が寄せられました。

1人は「私のクラスに不登校の生徒が2人います。私は学校がすごく楽しいのですが、2人には学校以外で何か楽しいことがあるのですか」という相談。そして、もう1人は不登校には直接関係ないのですが「人を嫌いになるのもイジメになるのですか」と。

欠席が続いているほか、保健室でしか勉強できない同級生のことを、最近見かけないからといって「他に楽しいことでもあるのかなあ」と真顔で考えたり、同級生を「あの人、嫌いだなあ」と思ったことに対して「悪い心を抱いてしまった」と悩んだり…という質問です。私は相談を受け、ゆとり教育世代の子どもたちの興味関心や悩み苦しみは、親の世代の想像を超えたところにあるのかも知れないとあらためて感じました。

私たちが子どもだったころ、わが国は核家族が主流となっていきました。学校を出て、就職し、結婚して、自分たちの家を持つ。そんな豊かな生活を夢見た時代です。最近の子ども見ていて、経験値の低さや想像力の貧しさを思うとき、衣食住という文化の違いを感じます。特に子ども部屋の在り方が、子育てにとって大切な要因だと考えています。

日本では古くから、空間は障子やふすまで仕切られ、敷居はまたぐようにしつけられてきました。いわば紙の文化であり、壁で音や光を遮断する石の文化とは異なるものです。しかし、最近では、例えば個別相談を申し込むと「相談は別室で…」などとプライバシーを守ることが最優先されます。また学習塾でも個別指導を強調し、机ごとを間仕切りで囲ってしまうケースも見受けられます。

時間と空間の在り方 大切

by yoriko

このごろ、「家族で チャンネル争い」「長電話で親子が対立」などという話を耳にします。両親が共働きで、子どもたちは、家に帰ればゲームかテレビと向き合い、食事を済ませば、子ども部屋という個室にこもるからでしょう。マイホームを持ち、子ども部屋を与えるという子育ての時間と空間の在り方が、コミュニケーションの訓練や人間関係力を育む機会を奪い、他人への関心を希薄にしているとしたら、私たちは学校教育の枠組みにとどまらず、地域の教育として子育ての在り方を本気で考えるべきではないでしょうか。

子どもの〝やる気〟は、自ら〝気づく〟ことが推進力となります。例えば、遊びの中で兄や姉のやっていることを見て気づくこともあるでしょう。また、一人で花、鳥、木、雲などを眺めていて気づくこともあるはずです。わが国古来の『紙の文化』の中であらためて子育てを考えることが子どもの意欲喚起に結びつくでしょう。家族との絆、地域との関わりから、子どもたちは手本を見つけ出し、生き方を学んでいけるのだと思います。

（畑山篤＝志学塾塾長）

東京スカイツリーを教育に

2012年春を予定する東京スカイツリー。634メートルの世界一高い自立電波塔として注目される。そんな近未来のシンボルを教育にと、子どもたちや想像力を引き出す校活動やイベントに開されている。

東京スカイツリーの見上げる東京都の区立業平小学校設地が決定した前から、国語やどの教科指導や動に、ツリーを取れてきた。建設

親も知らない プロフ

子どもとケータイ ⑥

彼氏とキスしているプリクラが、トップ画に掲載されている。中国地方の公立

プロフを日常的に使用するキミカ。始めたきっかけは可よりどころか。

プリクラで撮った画像を携帯電話に送って確認する。気に入ればトップ画に＝東京都内のショッピングセンター

なっても、いや～わかんないな、誰のこと言ってるんだろ、みたいな。自分も早くプロフやろうと思

なが るか いろ こと 楽し のだ といい 子ど ハま ハ。